

2291

百物語評判

五

大尾

百物語評判事之目録



好文堂

才一 痘の神疫病れ神 付 薪薪乙の宮れ事

才二 蜘蛛の沙汰 付 王守乙の事

才三 教生れ海 付 伏犧神農梁氏帝の事

才四 新宮城并山の神 付 張横渠の事

才五 仙術幻術の事

才六 夢の事

才七 西國奇化の物語の事

才八 而愠齋の事 并は草紙の并題の事

百拙修澤刺考之八

才一 痘の神疫病此神付 蕪蕪乙の字此事

ある人同く云痘此神疫病の神と尸とのあそ
まぶくも此よ此又とて病氣のふれとなす
とかく尸なうハセらやと同けは先生書に
云く痘の神疫病此神とにあらせし痘瘡
をいふ一書は戦国の法より後をうらはし
醫書にみえり元人此胎肉は金とじりて
る母のあり血と香くけ別命紙もはるごと
ほりし血の毒はこれ時の氣よいざなりと

て發しと瘡癰とありてさうばも根ざうハ
胎毒なまじとてさういざなふお八時の氣なりと
此あつまじつる交お鬼神わり是瘡の神を
アまじしと世により世儀よあさひくまじり
なりとと輕くなつてなりなまじにわくは又
瘡癰此神とてさうまじりし書よハ上
の惡王子乃にぬゝおけ神になまじりや
云傳ふまじとて其れとの世もてさなまじり生
とてしてお目の中にもまじり事とてまじ
りまじり瘡癰れにぬゝ時ハぬくまじり饑饉乃

はなまじりまじり死をるなり此生と
とてまじり一飯とてまじりさあまじりまじり
死後まじりまじりまじりまじりまじり
おまじりて人におまじりまじりまじり
マおまじりてまじりまじりまじり
告亂のまじりまじりまじりまじり
魂の瘡鬼となまじりまじりまじり
人れ強弱まじりまじりまじりまじり
やまじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり

名香と云は雄英紙りぞ又を神符なぞ
 半付すると云は近江家より新羅乙と
 子字と云はしを群談採録傳の部にあり
 事故なり元の末つて下にて疫氣に
 罹りし時漸に云は渡り此あなごあるを
 此をいふと云は形はしある時老僧一人來り
 云ふにしの船頭と云ひく云けるは今
 此西渡なる雲來りたる者み人云ふを
 て渡るといふと必ども云へるに云はみ人
 云ふ今て下に云ふ疫鬼なりと云へる

て渡ると云ふは文をよと見せよとて老僧を
 舟がこゝろに云はなりになり船頭あやと云ふ
 に思ひけり云はわんのおとくみ人の志ある
 と云ふ云ふと云ふ船頭云はけり云はり云は
 み人の志あるに云は船頭云は打擲さんと
 云ふ云はと云ひく彼文字に云はり云はり
 勢けきと云ふ人の志ある云はり云はり
 と云はりて云はり船頭云はり疫神に云は
 る云はり云はり云はり云はり云はり云は
 の志ある云はり云はり云はり云はり云はり



船より舟に今冬間とるまで進み是程なく
 舟より舟に入りてゆくさき進むらうと
 船橋の百ほどと入りて舟に舟はゆりて始
 めり舟はゆりて彼文字とあくにわたりける
 とるんば又なかりとるその船のうすほど
 人と教へしむるなすべしといふのみと
 今の薪薪乙きそと舟にひるるとはゆき
 舟二 蜘蛛の沙汰 兼王守しう事
 一人のいふとあると源氏物語の名は蜘蛛切
 とり舟はゆきしと太平記はあつたりといふ

料光の名称なく蜘蛛ほどの物なれそは
なふべしハかゆぐくゆりと同けきハ先
評くいふくハ事さるるに蜘蛛をち
いふ此虫なまじきと智のれそは
とて文字にも虫篇は知の字さるる又網は
あまじき物紙珠より義を解くは蜘蛛の糸と
半は是珠の字紙明さるるをさるるき
の蝶は周紙さるるを紙とハ蜂の蜂の
蜂ととめて蜘蛛さるるを智とハ
とらなるに何とて蜘蛛の智ある名ハ立

けりや海に一寸此虫はか方の魂なりきと
ゆふ蜂と花とハ蜘蛛とハさるる只身の
うへのさるるなりき蜘蛛とハく此の
むとさるるて事なまじき網紙さるるけ
ものさ己が餌にさるるき蜘蛛とハ
なせりさるるけ紙長トさるる蜘蛛とハ
大蜘蛛人とも害もさるる蜘蛛とハ
さるる蜘蛛の人のさるる蜘蛛とハ
人さるる蜘蛛の網さるる蜘蛛とハ
人さるる蜘蛛の網さるる蜘蛛とハ

むれ才紙動くは版のふすけとせらる
只紙のふさぐあきたくせなりと地の今
せらるむく月と書むけり紙にくみ
かく版ゆるとせらるものとや

才三 教生の偏付伏犧神農梁武帝の書
何人の云好く教生とせしむるを悉く
まゝ仇とせし又ちも子孫にむく事世
物とせしむしけり又佛家よ又戒の才
と一儒者よ又庖厨とや舞踊はし
いさきとも先祖のまゝりは穢とせし飲食意

に生れ教と教はるる事又聖賢の教なり
物よハ奥書紙振れとも口足といひる
より紙りけしむる事とて同を言ハ先生言く云
是むつとて偏なり紙ともいふ人又仏家ハ
平利益とて言ふ人又人の親とて言ふ
上の親ハ親ハ親又蟻蠅紙なる事人紙ん
にむく一けり又はけり教生戒紙をくつ
此虫紙と教とて言ふ人又虫紙教とて
教とて言ふ人又はけり教生戒紙をくつ
教とて言ふ人又はけり教生戒紙をくつ
教とて言ふ人又はけり教生戒紙をくつ

けさあつくなるといふは今の事とて是も又
 考へてやうなやからぬ所然るを人
 より畜生になり畜生より人間は生れさる
 一足の急務試みるも是は何れも畜生
 此の親なり事も知るゝに現をいふ
 おくさる親なり親類の中何れも畜生に
 おもひてやうな事とていふに況やわが人は
 おもひてやうな事とていふに況やわが人は
 て親類のおもひてやうな事とていふに況やわが人は
 以基の歩にあらざるにあらざるにあらざる

けさあつくなるといふは今の事とて是も又
 考へてやうなやからぬ所然るを人
 より畜生になり畜生より人間は生れさる
 一足の急務試みるも是は何れも畜生
 此の親なり事も知るゝに現をいふ
 おくさる親なり親類の中何れも畜生に
 おもひてやうな事とていふに況やわが人は
 おもひてやうな事とていふに況やわが人は
 て親類のおもひてやうな事とていふに況やわが人は
 以基の歩にあらざるにあらざるにあらざる

てをねらふに業あり及ばば山嶺といふと云
へり是禽獸草木へおふふを公なりと云
天地開闢のころめ人あり万物の靈なきは禽
獸ありと云ふは後より生れしは衣服
なりと云ふは皮を被ふ禽獸の血を以て
肉を食ふを皮を食ふと云ふは其の力
の強き物ありて人の害を被ふは其の時
に君より法制定る事其後より聖人
は犠牲を以て法をたしむるを犠牲といふは
獸といふ公なりと云ふは人民は其の如く禽
獸

たりと云ふに始りて始て殺せしむる事
は人より聖人と非農氏といふは是より
言はれしと云ふは其の何れも人より
なりと云ふはされしを犠牲といふは
法より生れしは其の如く禽獸といふは
禽と云ふは強きと云ふは弱きといふは
天地開闢の勢なりと云ふは人倫の
如くといふは是より生れしは其の如く
禽と云ふは人より万物の靈なきは
禽と云ふは人より万物の靈なきは

俗のことは國公孔子の道なり所よし
の武帝といふ天子ふく佛法僧侶一教生
戒法たりしそ佛法教に宗廟の牲紙蠟
はく作り織物少く人生もの紙わすめ
もく山と山は多敷せりて教生戒と
所あらに似しきにならざるはしとを
と敷とて戦く教多し然るに佛法は
大経論のふよと儒教より教ひし
果しく國々までして盡くは餘りぬ
さハといふと勢と佛法ありきと

よあはれよは海うせうぶくなりと
の舎法もふくしそ舎法は官位法に類
わけくはあへて又舎法のみに
法にひくは人皇のふめ法はそ
風氣むけく又教とみちくはに
めより法は法の法もふく及ん
ふよりそ舎法の風俗なむし中
ふれ要は佛法用むとあり人の
孔子者くのとふくふくふく
そ恵大律と同座なり所
の教同よわ

うりて悪一國は入るを由あるがふ
なほハ向は月事なることと
世くもきより用ひずといふ
るより思ふは物産の類を
らふく人の影にらるる地な
風俗もさう悪くといひや
生れぬものも天地のかえ
とぬものもあはそむけど
ら神も舊の穢師などのな
とのなりたる面々此等
るべきと明くし

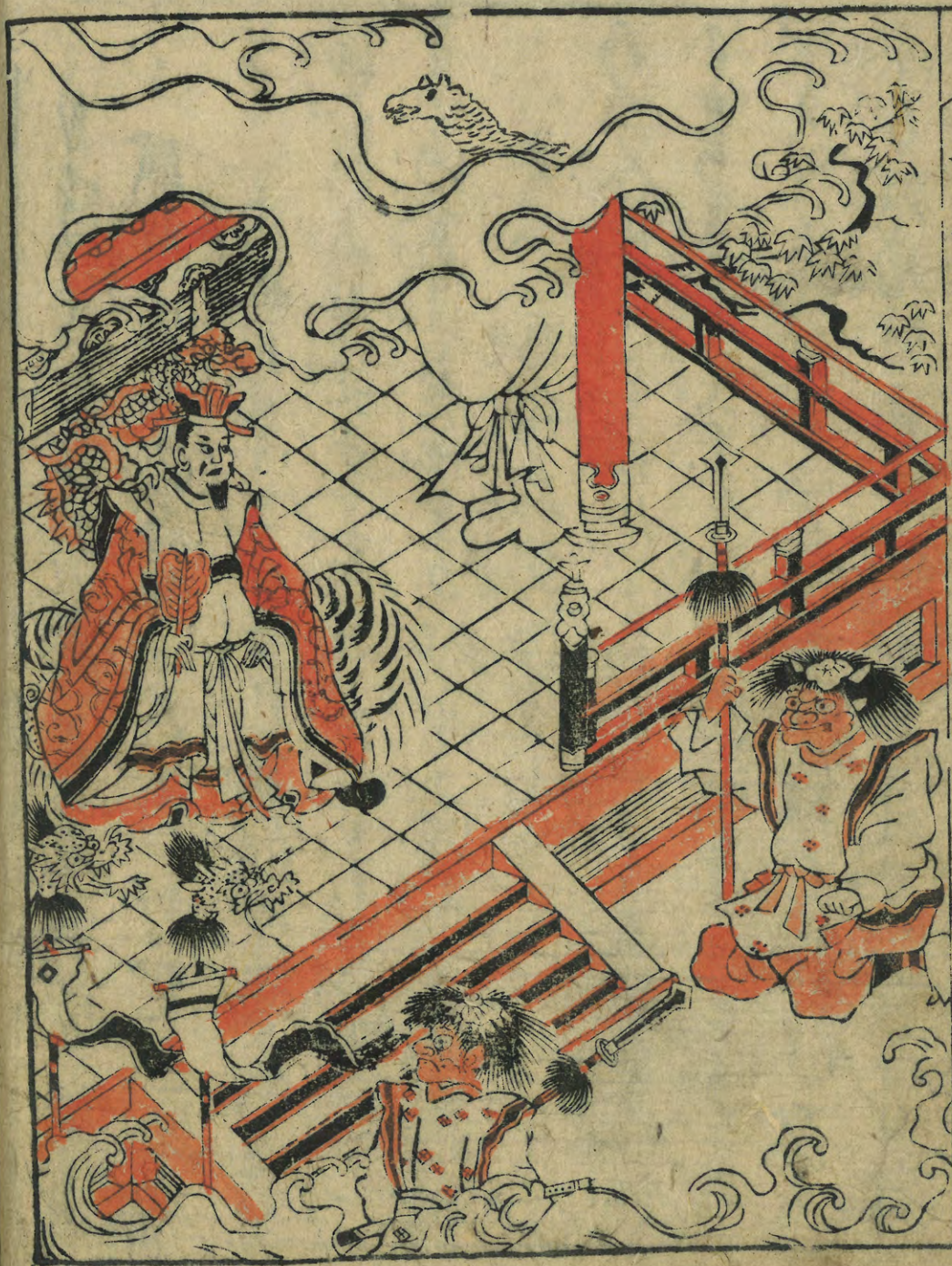
才臣 龍宮城再ふの神付張横渠の事

あり人同くいづく蒼海の底は龍王れあ
世俗もさうなりと又
と儀教をうねりたる
さあえゆりつ
に河伯をさうなる河の神
とりて山の神の事
同くさハ先生
く云ふ神

何事をもなすべし 然とてそを能くその顔くま
海へ一歩も子と絶つるものあらばよく
人あも変化を極にしにわづれどもとて人とい
れり 然るやわづれどもとて人とい
うにむむ位あどもとて人とい
ふをいひつるなり 然るや八大勢王なる
自らハ佛の流法よりて異勢の感應
よりなりとつけたりなり 然るやハ
元よりとてなり事にあらずとて極
にあらずとてなり 張横渠先生海神と云

王の少くも能く人になす 衣冠法を
へるは横渠のわやよりなり 然るや
より王の少くも能く人になす 衣冠法を
海伯の名を莊子が寓云と云なり 酉陽雜俎
なるの寓説を位よりいふとてなり 然るや
身又 他術幻術の事

ある人同く云 他術幻術の事 然るや
より王の少くも能く人になす 衣冠法を
海伯の名を莊子が寓云と云なり 酉陽雜俎
なるの寓説を位よりいふとてなり 然るや
身又 他術幻術の事



老子らうし氏し元祖げんそとなせるとやさく又幻術げんじゆといふ
 我われハ魔術まじゆといふといふく多おほくの不思議ふしぎなる
 一いっ弎さんとのと火ひとつゝも我われ自由じゆにあり
 なやすらはしなりけいといふ所の理ことわりなりや
 うけなり反さかりといひけいといふ先生せんせいといふ
 ていといふ他人たにんの妙法めうぽう三さん代の威いなりといふ
 我われ必かならずの末すえ又起おこりて秦漢しんかんにさくむなり老
 子らうし氏し元祖げんそといふをきき子孫しよそんも若わく不死ふし也
 といふ論ろんありといふを理ことわりにゆけといふ所
 なり秦代しんたい始皇しやうわう修福しゆふくといふく不死ふしのといふなり

とせめしむるはけり世々の帝王民を治して
全紙はの御文とて読まはるるありあり
にそ人の大おる者多し刑罰はあひ
たりその御文より事海よりに及ぶに極
る紙うけるに雲にのぼる事と程子の説は
人を陸よりとて生るる名なきに決しとて
理はしあふ中に海はあふる居る人事と
まどへは多岐紙より松樹紙よりひなび
せむ人の壽命より少く生れより多あり
とのう海なる事二程全書に記えたりと

ことごとくなりたる事紙に書きたる人の例に依りて決む
 画首えきくびなりと書紙に書きたる人の例に依りて決む
 よふ名なあき巴くさ神かみ仙せんの書に化していづくは
 羽化うけしとてなく又紙に化していづくは
 しき殿にりたり又を刑かぎするにあらむ
 死したる事紙に記し史官の書に記しを記
 する事又書きたる事尸解しげなりと書きたる事
 解とくとてけこ形かたちせぬありて又ぬれぬ事
 にあつた事なりとて又ぬれぬ事なり
 ぬれぬ事なりとて又ぬれぬ事なり

あくもとにほくあり魔法のおとしあくの
術あつる記しは事ごとく他術よりきよき
あさゆかり事ごとく一画りの法ごとくみえ
きりきり紙張といふと実のひよへあ
らぬ人の月よのじうおとくえきなりと
他の事と皆是にれはじそそ他なる
と幻術にきくとさぬぐよくゆるるあ
て人紙あさびく時を必に害よあふ畢竟
実のひにわらばとそハ勢あふとくも身紙
とくの一國と流る使ふにわく寸聖賢のい

はざりきよきま何の用にききあむむその
うあくもききくもそ術の量なりとあし
にき彼術とほふふ白と紙と紙と紙と紙と
と紙と紙と紙と紙と紙と紙と紙と紙と紙と
あわききききききききききききききき
砂紙ききききききききききききききき
あげききききききききききききききき
やききききききききききききききき
ききききききききききききききき
ききききききききききききききき
ききききききききききききききき

才六 憂抱がりの事

ある人の云々んむの枕とてふを陰は心陰
が抱起さすぬやと同じきむ先生より
ていふ山蒼り蓋世成切泰一炊といふ詩の
後には異因縁とていふ云々あるは仙術の事
なり成徳はハ佛道のゆゑにまどへるなり
やぶとてそ抱なるといふとわらわらむ
もや抱れりて憂とて抱てそ抱ぐの
ゆゑに抱て先人の遺入るる時ハ五臟六腑
の成るさるまゝい何事とそ抱てとてど

抱ひの主人を縁つた成は思ふ事
起るなり抱ひひ然とて是成憂とて
なりそそ憂にさぬこれのりなり
む心の火虚する人を成憂と腎の水
虚する人を成憂となすなり成憂と
り又そ憂のなり事につく人なり
なり是成憂のく横に成なりなり
るなり成憂に成なりなりなり
るなり成憂のなりなりなりなり
なり又なり成憂に成なりなりなり

若^{わか}芳^{よし}沢^{さわ}馬^ばへを若^{わか}芳^{よし}と夢^{ゆめ}もくもねもあふふよ
 うつくも事^{こと}成^{なり}るるを思^{おも}ひ夢^{ゆめ}といふれ子^こ
 れいそゆり夢^{ゆめ}いづよ周^{しゅう}公^{こう}成^{なり}るにと作^{つく}を
 ましとけ^{この}類^{るい}なり又^{また}陽^{やう}夢^むといふる丁^{てい}固^この
 松^{まつ}の夢^{ゆめ}王^{わう}濬^{じゆん}が三^{さん}刀^{とう}の夢^{ゆめ}れ^れ類^{るい}もくも事^{こと}あ
 ひとてき必^{かならず}に^にあ^あり^りる^る氣^きの相^あ感^{かん}ト
 るる夢^{ゆめ}成^{なり}るなり彼^あ詩^し經^{きやう}よとける夢^{ゆめ}あハ
 夢^{ゆめ}れあ^あく^く地^ちでん^んま^まむ^む女^{にょ}子^しま^まと弓^{きう}矢^やん^んを
 め男^{おとこ}子^こ生^{せい}ゆ^ゆ類^{るい}あ^あく^くい^いあ^あく^く火^ひに^にく^くを
 一^{いち}面^{めん}去^き二^に鳥^{てう}の類^{るい}なり又^{また}わ^わと夢^{ゆめ}の^のん^んえ^えく



かなうはるるの事とてさう又びくのおとし
人の心も律ゆはるるものなまじき自然と
そふき思ふ事ありさうなうとされども
起ぬる事にぬき人に更ふともい他念お
ほさぬ事なりけりともい入る事
とてを却て心の働きともいなる事又
陽夢にと思ふに病夢にともいふ
て若座の邊よりて坐の風系紙御車に余
りて嵐元紙御車なりともいふ是等の夢
けりともいふ事なりと評せり

才七 而温爾化抱ものごりれ事

一人の心く胃のりの抱はるるぬくれ
世作さうさういふ先生は何れともいふ
抱はるる事と同き先生言ふ云々
がーあうさう抱ぬくえり事紙り
Pのりそ抱はるる事Pさういふ今ハ
世は儒学なりぬれ人にもいふ事
と後人を髪以異なりぬれ衣服さうさ
けくろむむこき抱ぬく人知ある
ざりる事の事同きさう利欲へ事の人

は十倍一くにはよき事になひかせとて
此付家あるなりもなれたる倍儒腐儒など
て儒士の化抱なり力にたてなれども一は
よハ五戒とせけとて戒のたふめづりとお
あぐはしと破戒無慚の屋うろを家のお
もたふ責備なりやそお世儀のよき
と傾城なりとふ抱の仕とてるに思ふ
おのち事し髪とてなり凡とて解く人
あつても女房のおとくひとてふもこの
こく人とてあつし金銀とてひとを是

女のなけねなり金銀は又ふさなるもの
わりえり男文のなとびうりうり
とてどいひはよりてを雅文に感よなり
ておのちうりうりうりうりうり
ねゆひやまたを好文のなけねなり
そお判らんはとていなり
ふ抱のたにく人のかおれ
よりうりうりうりうりうり
あつなりなりなりなりなり
とてなりなりなりなりなり

君みにあはれぬやうなふもじむうりたを
くをさうふ才藝人あはれぬやうと
はがたのく新号紙付のうなりPせ
今更おこつてこの事をききであさうり
おねにあらうておこつと書癖あらに例
けりな経史子集のまらくなつた眼とさ
けりな伏儀より下明清にあらうあて世
の法政改めたる人た賢否事た變易
けりなうとくそふといふ事なく醫術ト並
種樹相牛の事ゆき強さや中江禅子と

好うなりなふもじむうりたを
うういといふ法家の養備法師の
孫はほぐぬやうな目れりやのるを
香山のぬりやうとまけのぼりにて
うとれなふもじむうりたを連
まぐむけりやうとぬりな昌黎の
え頭うあらふとぬりなふもじ
とぬりなふもじむうりたを打
歴代異考源氏家傳抄百人一首
ぬりなふもじむうりたを増補
ぬりなふもじむうりたを

紀抄が本草抄神の後の抄をうすの
山さぐさたるうさうといふは金うなと
わをささけ人の金にまうあて持は
らるるしとあり又家のおさうもあり
かくく世あとのにまうあて時にと知
らるる本とあるは朽果むき何ぞ而温
なうさう人さやあまうと云くと金のね
ざりをあうくさ付をさて及よ夜ゆい
とさむ外紙を何とP金をふかけ事
に備どあまう古今の金思候あううん

とあえも情誠冷閑なる事又車此出張り
心さうとといひしう先生いふうさうと
金のとれと云付なり百地所係利と名
付なりと一歩さ名の金に付とと名
古人の金よ叶ひ付るむく様柴先生
あの名の金と云く破愚訂領と名付なり
いかむ程子と云うむくく東西の金と
号せよとあうのひとされむい事候なり
く此名をゆえけきと思と後の金事
あうひく名付なりとPされく候る

御うにんけきむ各區おつてぬまのち
先生寛文壬子のころ六月廿七日よに十二
策けと果てりあはれにまゐる
てせむいづるの事り傳へんに多
傳へりや先生姓を平山岡氏諱を元隣
字を徳甫又祖を辨別山岡の人なり是
もその親の如きなりなればりきつけたり

百物修評判考之み後

百物修評判跋

百物のり評判に棒よりむして
げきむ人の人さういづく山岡而愠
寛文壬子此方後あるひを
巻軸よ見たりあきと評判のうらに
ちの例と引用らる事傳へば
故事れり評判にあらはれ
わぐ物なるは誠は二面愠齋此外は和漢
乃進者あり希評判くくなぐり名に
傳へるのり思ふにふり

といふもよに推量に似たり醫家に用
は素問とあり書きては伏羲帝に似たり
かうそれと云はれ我國のすゑになりぬき
なるこれ人を皆黃帝に似たりに似たり
にありひあつて又莊子と云はれ
の時陳轅を人かありけり
れさなるうのひけり
て三墳の文はとんて三代の世と
えざる異人の姓名なぞ半載たりと
寓玄とりなりけり
言

に類せりなりなり一而愷爾の長子何なり
將藏洽羅あり又の才徳はと越たり
あり此書とすにありて云く乃蘇け書と
ありなりなり中なりなり
と又の志なりなり
を予すなり
ありてありと補ひ
でけりなりなり
他者に似たりなり
先と人

貞享丙寅曆季夏仲旬

堀川通西吉水町

堀川常政

好文堂